

## 2 現状と課題

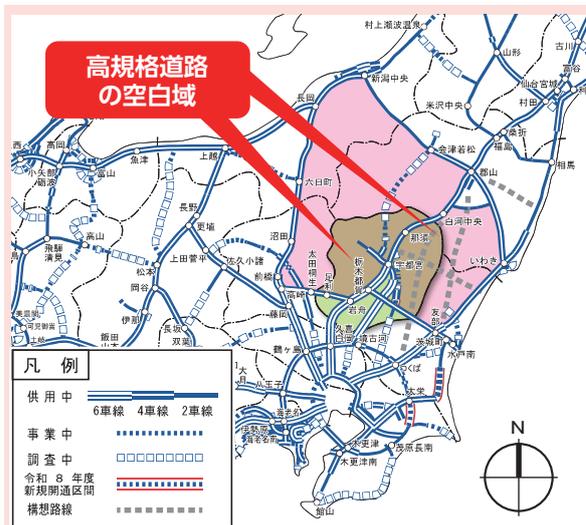
### (1) 道路の現状と課題

#### 1 広域道路

##### ①現状

人口減少が進む中であっても、本県産業の競争力を一層高め、持続的な成長を実現していくためには、国内外との人やモノの交流・連携を促進する広域道路ネットワークの構築が重要です。しかしながら、県内には高規格道路の空白域が存在するほか、整備済み区間においても暫定2車線での供用箇所があるなど、ネットワーク全体としての機能が十分に発揮できていない状況です。

また、首都直下地震など首都圏が広域的に被災した際のバックアップ強化や、災害時における県民生活や社会インフラ機能の維持を実現するため、空港や港湾等の交通拠点への安定的かつ効率的な輸送を実現する広域道路の多重性・代替性の確保が求められています。



資料：国土交通省「令和8年度道路関係予算概要 高規格道路ネットワーク図」より作成

図表14：高規格道路ネットワーク図

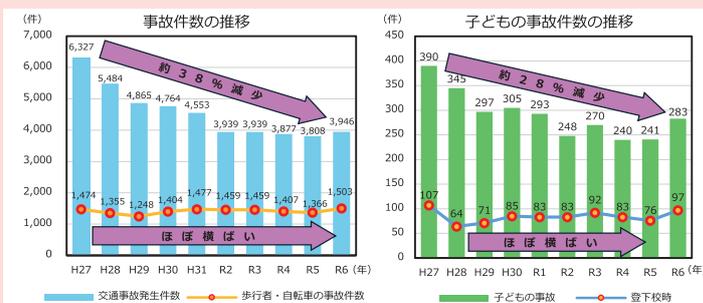
##### ②課題 【凡例】 ▶ 現状を踏まえた課題 ▶ 時代の潮流等を踏まえた課題

- ▶ 輸送力の不足等を踏まえ、本県産業の競争力を一層高め、持続的な成長を実現していくためには、**高い定時性と効率的な移動の確保**が必要です。
- ▶ 県域を越えた国内外との連携を図るため、**高規格道路の空白域の解消、広域道路ネットワークの充実・強化**が必要です。
- ▶ 災害時に早期に広域交通を確保するため、**広域道路の多重性・代替性の確保**が必要です。

#### 2 交通事故

##### ①現状

近年、県内の交通事故発生件数は減少傾向にあるものの、歩行者や自転車利用者の事故や子どもの通学時における事故はほぼ横ばいの状況です。また全国的には、歩行者や自転車が多くの利用する生活道路において小学生の交通事故死傷者数が最多となっており、子どもたちの命を守る交通安全対策が求められています。



資料：栃木県警察本部「とちぎの交通事故(令和6年版)」、栃木県警察本部「交通年鑑(令和元年版～令和6年版)」を加工して栃木県県土整備部が作成

図表15：栃木県の交通事故発生件数



資料：国土交通省「生活道路における交通安全対策検討委員会 第1回」

図表16：生活道路における死傷者数

##### ②課題 【凡例】 ▶ 現状を踏まえた課題 ▶ 時代の潮流等を踏まえた課題

- ▶ 子どもたちをはじめとする道路の利用状況を的確に捉えた**交通安全対策の推進、安全で安心して利用できる道路ネットワークの確保**が必要です。

### 3 交通渋滞

#### ①現状

県内の各拠点を結ぶ幹線道路においては、都市部を中心として朝夕の通勤時間帯に交通渋滞が発生する箇所も多く、定時性や速達性が損なわれている状況です。

また、日光や那須をはじめとする観光地においては、行楽シーズンを中心に発生する交通渋滞が円滑な観光周遊に支障をきたすだけでなく、国内外からの来訪者の満足度を低下させる要因となっています。



図表17: 旅行速度の調査結果 資料: 栃木県県土整備部作成  
 ※朝の通勤時間帯（7:30頃）の調査結果  
 (県道宇都宮向田線/宇都宮市)



図表18: 観光地の渋滞状況(県道那須高原線/那須町)

#### ②課題

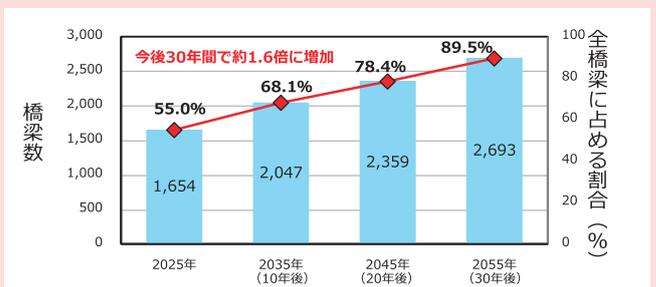
【凡例】 ▶ 現状を踏まえた課題 ▶ 時代の潮流等を踏まえた課題

- ▶ 地域間の交流・連携を促進するため、幹線道路等における円滑な移動の確保が必要です。
- ▶ 観光地としての魅力向上を図り、国内外からの観光誘客を強化するため、観光地への快適な移動の確保が必要です。
- ▶ カーボンニュートラルの実現に向け、ハード・ソフトの両面での渋滞対策によりCO<sub>2</sub>の排出量削減が必要です。

### 4 社会インフラの老朽化

#### ①現状

橋梁やトンネル等の道路施設は、高度成長期以降に整備したものが多く、今後、建設から50年以上経過する施設の割合が加速度的に増加することが見込まれ、適切な維持管理による老朽化に起因する事故や機能低下の予防が求められています。



図表19: 栃木県が管理する建設後50年を経過する橋梁



図表20: 老朽化した橋梁 ※整備前  
 (県道黒磯棚倉線/那須塩原市昭明橋)

#### ②課題

【凡例】 ▶ 現状を踏まえた課題 ▶ 時代の潮流等を踏まえた課題

- ▶ 将来にわたって必要な道路機能を発揮し続けるため、事後保全から予防保全への本格的な転換や新技術の活用などによる維持管理費の低減を図るなど、持続可能な道路管理の推進が必要です。

## 5 防災・減災、国土強靱化

### ①現状

近年では、気候変動の影響により、全国各地で自然災害が頻発・激甚化しており、更には、首都直下地震などの巨大地震の発生も切迫しています。

こうした中、国では「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」や「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」としてハード・ソフト両面から対策を進めてきました。

さらに、国土強靱化基本法に基づく「第1次国土強靱化実施中期計画」を定め、令和12(2030)年度までの5年間で対策の加速化・深化を図ることとしています。

県ではこれまで国の施策に呼応し、栃木県国土強靱化地域計画等に基づき、積極的に対策を進めていますが、防災・減災、国土強靱化の取組は道半ばにあります。



(県道宇都宮今市線/日光市岩崎)



(国道121号/日光市藤原)



(県道県民の森矢板線/矢板市長井)



(県道上永野下永野線/鹿沼市久保田橋)

図表21:過去の自然災害による被災状況  
(上:平成27年9月関東東北豪雨災害、下:令和元年東日本台風)

### ②課題

【凡例】 ▶ 現状を踏まえた課題 ▶ 時代の潮流等を踏まえた課題

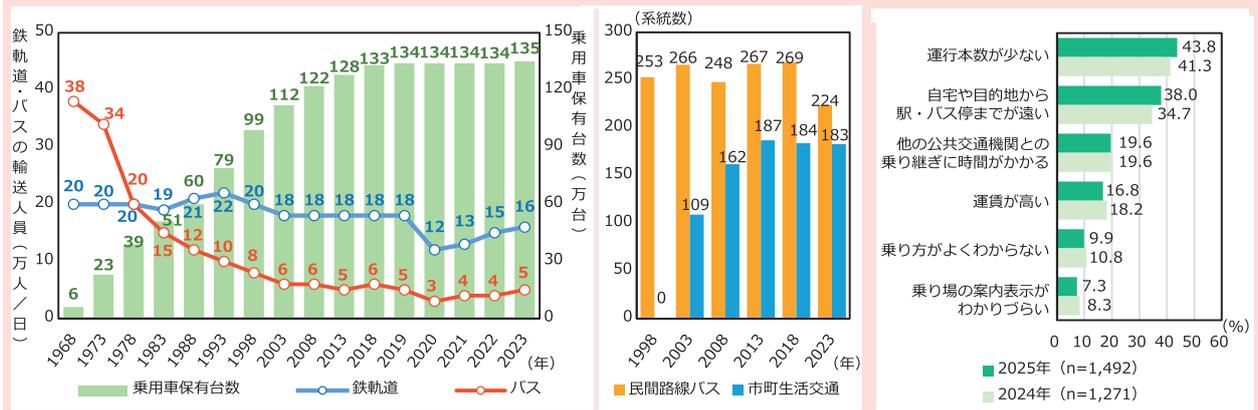
- ▶ 県民の「命」や「財産」はもとより、日々の「暮らし」や「生業」を守るため、市町、民間企業や県民等のあらゆる関係者と連携しながら、**強くしなやかな交通ネットワークの構築に向けた取組を着実に推進していくことが必要です。**
- ▶ 災害時において安定した移動を確保できる道路空間を形成するため、**道路空間の防災・減災対策を推進していくことが必要です。**

## (2) 公共交通の現状と課題

### 1 公共交通のサービス確保

#### ①現状

人口減少や少子高齢化に伴う公共交通利用者の減少などにより、民間バス路線の統廃合が進んだ結果、廃止区間を市町の生活交通であるコミュニティバスやデマンド交通が補完しています。また、利用者からは運行本数が少ない等の意見が出されており、サービス水準の向上が求められています。



図表22: 栃木県の鉄軌道・バスの輸送人員、路線バス系統数の推移

図表23: 公共交通で不満に感じる点

#### ②課題

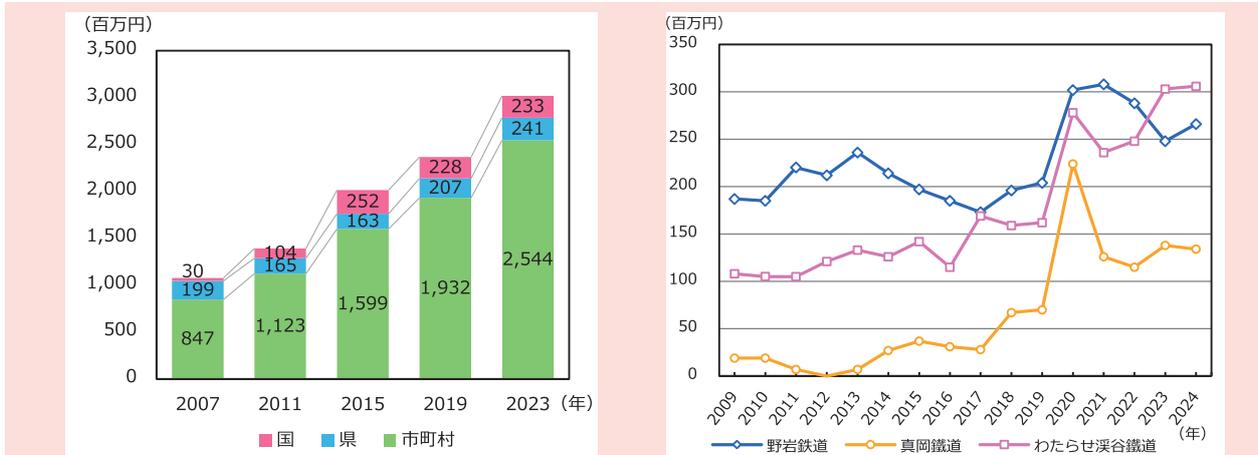
【凡例】 ▶ 現状を踏まえた課題 ▶ 時代の潮流等を踏まえた課題

- ▶ 地域の実情に応じた交通ネットワークの確保、地域公共交通の利便性向上が必要です。
- ▶ インバウンド等の増加を踏まえ、公共交通利用による周遊の促進を図るための取組が必要です。

### 2 公共交通の持続可能性

#### ①現状

公共交通の利用者の減少などにより、運行を維持するための公費負担額や第三セクター鉄道の経常損失額が増加傾向にあります。



図表24: 栃木県の生活交通運行に係る公費負担額の推移

図表25: 第三セクター鉄道の経常損失額の推移

#### ②課題

【凡例】 ▶ 現状を踏まえた課題 ▶ 時代の潮流等を踏まえた課題

- ▶ 公共交通サービス及びその水準の維持・確保に必要な運転者不足に対応した取組が必要です。
- ▶ 効率的で持続可能な公共交通サービスの維持・確保が必要です。